



	English	中文	交通アクセス・地図	お問い合わせ	サイトマップ	サイト内検索
	受験生の方	広大へ留学希望の方	一般・地域の方	企業の方	卒業生の方	在学生・保護者の方

催 力



~ 催 力 ~

回 医 場 害

回 力 害

回 人 力

広大公式アカウント一覧

- Twitter
- Facebook (日本語版)
- Facebook (英語版)
- YouTube
- 行事カレンダー
- ストリートビュー
- キャンパスカメラ
- 学内ポータル



開催趣旨

「女性に対する暴力 violence against women」とは、女性が「女性であるがため」にうける、虐待や性暴力などの被害（職場でのセクシュアル・ハラスメント、夫婦や恋人間でのドメスティック・バイオレンス、ストーカー、いたずら電話、電車や街での痴漢被害など）のことをいいます。近年、両性の平等の問題にかかわる重要課題として世界的に注目されるようになり、日本でも法整備などの対策が、相次いで始められてきています。

この問題は、家族や恋愛や性の問題がからむため、深刻な悩みを抱えていても、誰にも言えずに一人で抱え込むことが多いという特徴があります。DVの発見や初期援助などの段階で、医療従事者が果たす役割は重要です。ここ数年、DVや性暴力に対する医療機関対応マニュアル作成や研修の動きも始まっています。

そこで、「自分に関わる問題として、考える機会」を設けるとともに、「将来、医療現場で活躍する学生や、現に医療現場に従事している職員のみなさんが、この新しい社会問題に対する認識を深める場」として、霞キャンパスを拠点に連続セミナーを実施します。

講師プロフィール

塚崎裕子（内閣府男女共同参画局推進課長）

昭和62年労働省入省。岩手労働基準局監督課長、労働省職業安定局外国人雇用対策課課長補佐、政策研究大学院大学助教授、内閣府男女共同参画局調査課調査官を歴任。

平成18年男女共同参画局推進課配偶者間暴力対策調整官を経て、平成19年8月より現職。

北仲千里（広島大学ハラスメント相談室准教授）

名古屋大学大学院博士後期課程修了。社会学者。NPO法人フェミニストサポートセンター・東海 理事としてDV、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに関する被害当事者援助と専門職研修の実施、研修教材の開発にかかわる。著書に『DV防止とこれからの被害当事者支援』戒能民江編 ミネルヴァ書房、『ジェンダーで学ぶ社会学 改訂版』伊藤公雄・牟田和恵編 世界思想社「第8章 悩む DV、ストーカーとジェンダー」など。

竹下小夜子（さよウイメンズ・メンタルクリニック院長・精神科医）

昭和27年沖縄県生まれ。昭和53年北海道大学医学部卒。精神科医（さよウイメンズ・メンタルクリニック院長）。琉球大学非常勤講師。沖縄国際大学非常勤講師。研修・講演等、全国の国公立機関・団体スタッフ育成や一般市民への啓発活動に精力的に取り組む。著書に『性to生～ジェンダーのはざまから』沖縄タイムス社刊、『Working With Women -性暴力被害者支援のためのガイドブック-』フェミニストセラピー研究会編 フェミックス社、『ドメスティック・バイオレンス～サバイバーのためのハンドブック』原田恵理子編 明石書店、『オキナワ・女たちは今』ゆいまーるセミナー編 ドメス出版、その他論文など多数。

中島幸子（NPO法人レジリエンス代表・DVコンサルタント・ソーシャルワーカー）

DV被害にあった経験がきっかけとなり勉強を始め、1991年に米国にて法学博士号取得。2001年ごろからDVについての講演活動を開始。2003年にソーシャルワーク修士号取得。同年、東京で「レジリエンス」を結成。東京と横浜で女性のための「こころのcare講座」を毎月行いながら、全国各地で毎年多数の講演を行う。杏林大学非常勤講師。茨城県立医療大学非常勤講師。